

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	令和 1年 9月 25日	評価結果市町村受理日	令和 1年 11月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201594-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して15年経ちました。地域の方も温かく協力的で災害時には心配の声をかけてくれたり色々々と協力して下さったりと心強いです。近所の保育園児との交流や百合が原公園での資源活動も根付いており毎年の恒例行事として取り組んでいる。施設ホーム内は天井や廊下が広めに設計されており明るい雰囲気の中、入居者一人ひとりが、ゆったりとマイペースで過ごされています。各居室には洗面台とトイレが備え付けられておりプライバシーにも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟」は、近隣に百合が原公園などがある自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。バス停やJR駅にも近く、交通の利便性にも優れている事業所である。広い敷地に中庭やウッドデッキを備えた平屋建ての建物で、開放感のある居間には天窓から明るい光が注いでいる。居室にはトイレと洗面台が備え付けられており、プライバシーにも配慮された造りになっている。地域交流に積極的に取り組み、町内会の夏祭りや公園の花壇整備などに利用者と一緒に参加している。向かい側にある児童発達支援施設の子供たちが普段から中庭に遊びに来たり、ハロウィンの時に仮装して来訪するなど子供たちと触れ合う機会も多い事業所である。運営推進会議は、高齢者虐待や防災について勉強会を実施したり、薬剤師による体と薬の話や認知症についての講話など充実した内容で開催して参加者に多くの情報を提供している。管理者や統括管理者との面談の他、職員アンケートを実施して職員の意見や提案を日々のケアや運営に反映させている。外出の面では、日々の散歩の他、季節に応じた花見や紅葉狩りで遠方にも出かけている。管理者を中心に全職員で細やかに情報を交換しながら、一人ひとりの利用者が楽しく穏やかに過ごせるように家庭的で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所独自の理念があり、玄関に掲示して全職員が目にする事ができる。	法人共通理念の「社会的緩和」項目に地域密着型サービスを意識した内容が含まれている。職員採用時に説明したり、ユニット会議で確認することもある。毎年ユニット目標を作成し、ケアの充実などにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百合が原公園での花壇造り、隣接の保育園児との行事七夕には町内の子供達が来所され交流されたり等、地域との繋がりが続いている。	近隣の児童発達支援施設の子供たちが中庭に遊びに来たり、ハロウインの時に仮装して来訪し、歌を披露している。町内のお祭りや公園の花植えに利用者と一緒に出かけている。チェロとバイオリンの二重奏のボランティア訪問も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議を通して、施設利用者の普段の生活や対応の仕方等を報告し認知症の理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回ペースで開催している、議題が例年とほぼ同じ内容になってしまうが、入居者の家族様の参加もありサービスに向けての情報交換が行えている。	災害対策や薬剤師による体と薬の話、認知症についての講話など毎回テーマを設けて開催している。今後は勉強会の資料なども議事録と一緒に送付し、参加できない家族の意見を事前に聞き取りながら会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、毎回、地域包括支援センター職員の参加があり事業所の状況を伝え、意見や助言が得られている。	市役所とファックスで書類のやり取りをしたり、区役所におむつサービスなどについて相談することもある。保護課の担当者や情報交換しながら、個別の相談をしたりアドバイスを受けたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員がすぐに見ることができる場所に置いている。日々職員同士で「これは拘束にあてられないか？」と注意を払いながら身体拘束をしないケアに努めている。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を含む身体拘束に関する小冊子をマニュアルとして整備している。ユニット会議で具体的な禁止行為などについて確認しているが、今後も定期的に勉強会を開催して、全職員で学びを深めていきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は入浴や更衣介助時には皮膚にアザ等がないかチェックを行っている。ユニット会議でも禁止事項に繋がらないかを話し合っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣ユニットに後見制度を利用されている方がいる。少しづつではあるが情報をもらい学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身体的やご家族の事情で契約の解約となることが多いが、入院中からの退居であれば医師や相談員、家族と今後の方針や入所先を相談して納得されたからの解約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族へのアンケートを例年実施し、アンケートは無記名のうえ返信先が本部となっている為、家族は遠慮せずに何でも意見や要望が書きやすくなっている。結果は職員全体に周知改善に向けている。	家族の来訪時に意見や要望を聞き取り、「家族連絡情報」に個別に記録している。今後は職員の気付きなども記録し、家族の些細な思いの把握につなげていきたいと考えている。また、個別の様子を写真や便りなどで知らせることも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての意見が反映されているわけではないが、全職員へアンケート調査を実施して意見を募っている。又、管理者会議において統括管理者に意見や要望を伝えている。	ユニット会議に参加できない職員の意見を事前に聞き取り、業務の流れなどについても検討している。業務の時間を変更したり、勤務時間帯の仕事内容を見直すなど、日々のケアに職員の提案が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの労働条件や希望をなるべく反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回ではあるが、法人内において主任クラス、管理者クラス、一般職員クラスとに分かれた研修を開催し、なるべく全職員が参加できるよう呼び掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の研修会にて他事業所との意見交換や情報収集ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、入居するにあたり不安なことや希望を聞き入れ対応するように努めている。又、家族や担当者に少しでも多くの情報提供をしてもらい実態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談～入居に至るまでに家族とは密に連絡をとったり、必要あれば訪問や来所をしていただき不安なことや希望を聞き入れ少しでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は外部からの情報しかない為、それを元に状況把握に努め、その時の本人が必要としている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の家族や生い立ちを話題に出すことで、親近感を感じていただき職員と利用者との距離が縮むよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には近況報告を行い意見交換を行っている。又、衣類の手直し等を依頼し協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バスレクなど外出の際には、入居前に住まっていた家の前や近所を通り安心感や懐かしい気持ちに浸っていただいている。	近所の方が訪ねて来ることもあったが、高齢化により最近では知人の来訪も少なくなっている。職員と一緒に馴染みの店に食事に行ったり、家族と墓参りや美容室に出かけている。家族が毛糸を準備して、編み物の趣味を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの交友関係や認知の程度を把握し、普段の過ごされる場所や食事席などに配慮している。又、利用者同士の交流が困難な方は職員との関わりにより孤立を防いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には御家族や入居先の事業所に、今後も何かあればいつでも相談されるよう伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの性格や生活スタイルを把握するよう努め、なるべく本人の趣味やペースが尊重されるよう努めている。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。利用開始時にライフヒストリー表を作成して6か月ごとに課題分析概要シートを更新しているが、趣味や嗜好などの情報は更新されていない。	「課題分析概要」シートなどを活用しながら、趣味や嗜好などの具体的な情報も充実させ、定期的に追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報収集を行い、これまでの暮らしの様子を把握するように努めている。又、入居前に他サービス利用があれば、そこからの情報も求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や日々の申し送りなどにて意見交換を行い情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より本人や家族の意向を聞き、暫定の計画書を作成し1週間～10日を目標に本プランを作成している。	毎月のユニット会議で利用者の状況について情報交換し、3か月ごとに計画作成担当者を中心に評価を行い介護計画を作成している。介護計画に沿って、日々の記録に利用者の変化などを記入しているユニットもあるが十分とはいえない。	介護計画の見直しに活かせるように、具体的な計画内容に沿って利用者の変化や課題を日々の記録に記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のアセスメント記録に記入している。毎日の引継ぎや月一回のスタッフ会議にて意見交換を行い一人ひとりの情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族事情により困難な対応(受診や買い物等)を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を通して公園での活動や散歩、近隣の子供達との交流、町内会の参加にて地域資源との協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より本人や御家族には当事業所の協力病院との連携体制を説明している。希望や状況によって他医療機関への対応も柔軟に行なっている。	定期的に内科や精神科、歯科、皮膚科の往診がある。専門医を家族と受診する時は本人の状況を口頭で伝えたり、職員が同行して適切な医療支援につなげている。受診記録は「受診情報」に記録している。	

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの訪問看護が週に一回のペースであり、利用者の状況報告を行っている。訪問以外でも変化があればいつでも24時間相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院であれば、いつでも本人の状況をきくことができる。他医療機関に入院中は定期的に連絡をして退院に向けての話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んだ時には家族に相談して、場合によっては医師や相談員との話し合いの場を設け今後の方針や他施設入所の申請等の支援を行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して利用開始時に説明している。体調変化に応じて主治医と共に家族と話し合い、方針を共有している。検討内容は「家族連絡情報」に記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時でのマニュアルは常に確認できるよう記録に添付している。夜間帯の急変時には救急対応を優先できるよう両ユニットが連携をとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には町内住民の方に協力してもらうよう呼び掛けており緊急通報システムにも登録していただいている。又、防災対策委員会を開催して災害対策に取り組んでいる。	年2回、夜間の火災を想定した自主訓練を実施している。職員の救急救命訓練も計画的に受講を進めているが、火災以外のマニュアルの整備は今後の課題となっている。地域住民の参加や消防署の協力を得た避難訓練も近年は実施していない。	水害や地震時のケア別の対応などについて職員間で話し合い、記録に残すよう期待したい。また、消防署の協力の下、地域住民の参加を得た避難訓練を実施するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室トイレにはカーテンを設置して、一部介助が必要な方の排泄中はカーテンの外で見守りを行ったりコールを利用してプライバシーに配慮している。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、申し送りは利用者がいない場所で行っている。11月に法人内で接遇研修を行う予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々、利用者一人ひとりの希望を実現できてはいないが普段の会話の中でその方の食べたい物や行きたい場所などを聞き取り行事などで実施できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮し日課の参加も強制しないようにしている。又、都合により入浴日を変更したりと入居者の都合が優先されるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思で選んで頂いている。自己決定が難しい方は、なるべく同じ服装が続かないようクローゼットにしまう時には下にしまう工夫をしている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっており毎回、一人ひとりの嗜好品を提供するのは難しい。食事量や食欲の低下が見られる方は御家族が本人の嗜好品を用意してくれたり協力があがる。	献立と食材が委託業者より提供され、事業所で調理している。誕生日やクリスマス、行事の際にメニューを変えている。利用者が下膳、もやしのひげ根取り、いも団子づくりなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事・水分量のチェックを行っており個々の必要摂取量を目指している。又、一人ひとりの状態に応じて食事形態や内容を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な方には毎食後、義歯洗浄と口腔ケアを行っている。又、定期的な歯科往診があり口腔ケアやトラブルにも対応してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や引き継ぎにより、一人ひとりの排泄状況を把握している。それによりトイレ誘導の時間や回数工夫し、なるべくトイレでの排泄を目指している。。	各居室にトイレがあり、数名の利用者は自力でトイレに行くことができる。他の方は状態に応じて誘導や介助を行っている。排泄状況を記録し、誘導時は羞恥心に配慮している。適切な誘導により自立に向けて改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分の促しと体操の参加を呼びかけている。便秘傾向の方には医師に相談して整腸剤や下剤の処方をしてもらい対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日に入浴されるメンバーは決まっているが、一人に対しての入浴時間を多く確保できるよう入浴順やメンバーに配慮している。都合により入浴できない方には翌日に入浴してもらえよう調整もしている。	各ユニットとも週6日入浴可能で、各利用者が週2回程度、主に午前に入浴している。広い浴室で、浴槽の左右から入れる浴槽である。入浴を拒む場合も声かけの工夫で入浴できている。また、希望があれば同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの身体状況や生活習慣に応じて休息をとっていただいている。夜間帯は事故防止の為、睡眠の妨げにならない程度に最小限の電灯をつけさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作成し、全職員が服薬状況を確認できるようにしている。又、連絡ノートや受診記録により薬の目的や変更の経緯などを伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みに応じた活動(ちぎり絵、パズル、ビデオ鑑賞等)を提供し、気分転換を図れるよう支援している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどの際には行きたい場所の希望を聞いたりとなるべく希望に添えた場所を選んでいる。又、定期的に御家族とショッピングや外食を楽しんでいる。	日常的な外出は、中庭の畑や玄関先の花を見たり、近くの公園へ散歩に行っている。年間行事では花見、町内会の夏祭り、紅葉狩りなどがあり、厚田や小樽などの遠くにも出かけている。家族と一緒に買い物や温泉に行く方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し自己管理可能な方は支障がない程度の金額を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方には使用方法の支援を行っている。又、遠方の家族より定期的に絵葉書が届きそれを居室に飾る支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やサンルームにソファを設置して利用者によっては御家族と自由に過ごされている。季節や行事によって装飾を変えたりと季節の変化にも配慮している。	共用空間は広く、居間は天井が高く天窓があり明るく開放的である。利用者の貼り絵作品や行事の写真、絵画などを多く展示している。観葉植物や雑誌など生活感を感じられるものを配置している。周囲にウッドデッキがあり、中庭を眺めたり、外気浴を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの性格や交友関係を把握し食事の席や普段の過ごされる場所に配慮している。又、本人に確認して過ごされたい場所を優先している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談し、本人の状況から危険が予想される物や本人にとって必要な物を見極め、なるべく今までの生活の延長で入居ができるよう配慮している。	各居室に洗面所とトイレが備えられている。テレビや冷蔵庫、机、椅子など利用者が馴染みの家具を持ち込んでいる。壁にカレンダーや写真を飾り、出窓に花や飾りを置いて、居心地のよい雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせ手摺りの位置やベッドの高さに等に配慮し、一人ひとりが安全にスムーズに生活できるよう対応している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	令和 1年 9月 25日	評価結果市町村受理日	令和 1年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して15年経ちました。地域の方も温かく協力的で災害時には心配の声をかけてくれたり色々々と協力して下さったりと心強いです。近所の保育園児との交流や百合が原公園での資源活動も根付いており毎年の恒例行事として取り組んでいる。施設ホーム内は天井や廊下が広めに設計されており明るい雰囲気の中、入居者一人ひとりが、ゆったりとマイペースで過ごされています。各居室には洗面台とトイレが備え付けられておりプライバシーにも配慮している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201594-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年10月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議で新年度の目標、理念を再確認している。また、ユニット目標については、日誌に添付しており共有できるようにしている。室内の目につきやすいところにも理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りに参加、地域の子供たちの七夕の集りや、百合が原公園との花壇の苗植えは継続できている。近隣の児童発達支援事業のデイサービスのお祭りに中庭を開放し交流も盛んになった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会、利用者家族に出席して頂き薬剤師に認知症について薬の副作用、種類などの講演をしてもらっている。ホーム内を見学してもらい生活の様子を実際に見てもらった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。高齢者虐待について課題を取りあげた。参加者より様々な意見をいただき参考にすることができた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市連絡会や、北区管理者連絡会などの定期的に参加をして、札幌市の情報提供等や、行政通達の案内をユニット間で提示できるようにしている。今年度は管理者連絡会の副代表として会議、研修、講演会開催の企画、連絡等の務めを果たした。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議でも実施しており、身体拘束と人権の尊重と権利擁護について研修を実施している。出入口には施錠することなく生活しているが、夜間は防犯上のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット研修で虐待防止について再確認している。スタッフ間で日々どのような発言、行動が虐待に繋がるのか、発見したスタッフが相談できる環境を作れるよう努めている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が数名おり業務上学ぶことが多い。見学等家族の相談を受けた時は、相談窓口の紹介や今後の不安はないのかの確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時は契約文を読むだけでなく、わかりやすく説明できるように務めている。契約時に疑問があればすぐに対応できるよう、契約書の内容を把握するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、面会時は家族からの意見や要望がないかの確認をしている。意見等があれば、速やかに取り組み検討をして説明とご理解を頂いている。アンケートの配布もおこなっており、今後の運営に活かせるようにケア会議で話し合いを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフのユニット会議、申し送り時の意見、提案を取りまとめ管理者会議で管理者が報告している。早急な事案は統括管理者に連絡し意見を仰いでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準、労働時間などは法人の規定に沿っている。勤務表は個々の希望休を反映し作成している。有給休暇も取りやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット研修を行っている。法人内の研修には参加できているが、外部研修参加が管理者のみの参加になっている。人員不足で外部研修参加は難しかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市、北区管理者連絡会議の場での交流はあり、定期的に参加し情報交換、事例検討などを行い質の向上に努めているが、職員が出席することができなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に利用者の不安、要望を確認して、利用者の生活リズムが崩れないように配慮している。家族からは、利用後の様子などホームでの生活を報告し家族からも助言を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに寄り添うように、初回のインテークを通じて利用前の不安や利用後での様子を詳細に報告している。利用後は落ち着いてからも状況等を報告するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人と家族が必要な支援を把握し、他のサービスの提案をしたり、他施設の種類、用途などを詳細に説明し本人、家族に選択して頂けるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の以前の暮らしの延長上だと考えて生活してもらえようように努めている。過度な介護にならないように注意を払っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の様子、体調の変化などは、家族の面会時や電話などで常に伝え、相談、協力を仰いでいる。家族の現状も考慮して関係が継続できるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人など、来訪される人は多い。時々によりリビング、居室などで共に過ごされている。急な外泊、外出などにも対応をしている。外出行事で以前、利用者が住んでいた付近を通るルートを選んだりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に談話したり、軽作業ができるように気を配っている。コミュニケーションがあまり取れない利用者には、職員を介して意思の疎通をしている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の利用者の施設などに面会に行き、現在の状態を確認したり、家族に退去後の経過を聞き相談が継続でき易いように留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、入居者の希望や思いをくみ取り、ケアプランに反映させている。ケアプラン上では本人の言葉、家族の希望を課題にあげて目標達成できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を本人、家族、ケアマネジャーから聴いたりして、情報収集をして職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記載には、日々での生活の様子。身体状況や受診時については、受診記録に記載して、訪看、医師と連絡をさせないように連携をとっている。連絡ノート、申し送り時には職員が情報を共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケア会議でモニタリングを行いサービス計画書に反映できるようにしている。利用者、家族の希望、意見を取り入れて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・受診記録、連絡ノートや申し送りで職員がいつでも情報を共有できるようにしている。記録には、利用者の思いが共有できるように言動を記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、個別のニーズに対応できるよう検討している。利用者、家族のニーズを具体的に取りまとめ迅速に対応できるように努めている。達成が困難なニーズに対してはケア会議にて議題にし達成できるように意見交換をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に児童発達支援のデイサービスがあり子供達が訪問して歌を歌ってくれたり、お祭りの祭にはホームの庭を開放している。町内会のお祭り、七夕、百合原公園のレイズベットにも毎年参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約前に協力病院のかかりつけ医の訪問診療になるか以前より受診していた病院になるか選択してもらっている。協力病院で診察が困難な場合は他病院の受診にも対応している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週1回の訪問看護を利用。利用者の体調の変化を報告し指示を仰いでいる。利用者の急変、事故等、緊急時には24時間相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡をとり情報交換をしている。病状、ADLの状況など確認して、退院後の生活に支障がないよう、かかりつけ医、看護師に報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約書に重度化した場合の事が記載されていて、十分な説明をしている。早い段階で医師、家族に相談をして重度化、終末期の対応の選択肢が多様化できるよう具体的に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日誌に急変や事故発生時のマニュアルはいつでも確認できるように添付している。緊急時の連絡網はわかりやすい所の提示。他ユニットの連携も取るようになっていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。防災対策委員会も定期的実施する。避難場所、災害時の食料備蓄の消費期限、非常用持ち出し袋の場所など職員に周知している。前年度は地区の災害訓練に参加した。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思を尊重しつつ、ホームの日課に参加してもらっている。声がけは不快にならない言葉遣いを選択し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知が進み、自己決定が困難な利用者であっても思いをくみ取るサインを逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ホームの日課の声かけはするが、強制はせず利用者の希望を尊重している。体操などは職員も一緒に参加して楽しんで参加できるように工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前より着ていた好みの洋服に似たもの、装飾品を身につけて過ごせるように配慮している。毎日の整容、爪がのびていないかのチェック、月1回の理美容などにて身だしなみを保っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる事ができる食べ物を時折提供している。ミキサー食の利用者には彩りよく見た目で食欲が出るよう考慮している。食事前後のテーブル拭き、もやしのひげとりなどは利用者が手伝ってくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はアセスメントシートにわかりやすく記載している。体重増加、減少傾向の利用者は個々に対策を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアに介助を必要とする利用者も含め声掛けしている。拒否が強く毎食の口腔ケアが困難な利用者もいるが、定期的に訪問歯科衛生士にケアしてもらい、歯科医師に治療してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はアセスメントシートに記載し個々の排泄時間、パターンを把握。便座に座り排泄できるように声かけ誘導をしている。介助は個々の残存機能に合わせ手すりなどを活用しなるべく一部介助、見守りで排泄できるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を朝、全利用者に提供している。水分量もチェック、不足している利用者には飲用を促し自然排便に繋がるように努めている。自然排便が難しい利用者には座薬、便秘薬を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週6回実施している。入浴の声かけをして気乗りしない利用者には曜日や時間を変更したりして、気持ちよく入浴できるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後にリビングでテレビを視聴したり、居室でゆっくり過ごしたりそれぞれの過ごし方をしている。夜間、入眠できずに居室から出てきたり、ナースコールに対応安心して臥床できるように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員がすぐに確認できる場所においてある。薬の変更、調整等は連絡ノートに記帳し全職員に周知している。、訪問看護師にも報告。精神科drと内科drの薬情報が共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前から自宅で行っていた家事や好んで食べていた物、聴いていた音楽などホームでも出来る限り変わらずに生活できるように家族にも協力してもらっている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の百合が原公園に行ったり、中庭に出て家庭菜園の作物の出来を見たり、町内会、児童発達支援のお祭り、お花見、紅葉見学など季節に応じて外出を支援している。玄関の花を見に行くなど少しの時間でも希望にそえるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元になく心配をしている利用者は数名いる。希望にて、家族に相談同意を得て少額の金額だが所持している。財布の保管場所を忘れて、他利用者に渡してしまったりしてトラブルになったケースもあるので職員は確認を怠らないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者にかかってくる電話は取り次いで話せるようにしている。自身の携帯電話で居室で話されている利用者もいる。手紙、荷物は利用者に届けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下には、行事の時に撮った写真などを貼り、季節を感じられる物を何かしら飾ってある。庭で取れたかぼちゃや花などをサイドテーブルに置いている。リビングトイレはわかりやすいように表示。冷暖房を完備して過ごしやすい空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下にそれぞれ2つつつソファを設置している。テーブル席の椅子は食事以外は指定せず、その時の状況や気分に合わせて利用者や職員、家族と過ごしたり、雑誌、新聞を読んだり、サンルームやリビングの窓から庭を見眺めたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真、仏壇など利用者が馴染みある物を居室に置いてもらい、以前の生活が思い起こせるように家族の協力にて居室を整えている。安全面も考慮して家具の配置、日用品の置き場所を決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に手すりを随所に設置し、床はクッションフロアになっている。習慣的に廊下で歩行運動や車椅子で自走してサンルームまで行く入居者も多い。居室入口には表札があり、自身の居室だと確認できる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟

作成日：令和 1年 11月 5日

市町村受理日：令和 1年 11月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	概ね、6ヶ月ごとに課題分析概要シートを更新しているが趣味や嗜好などの情報は更新されていない。	課題分析概要シートの充実を計る。	ユニット全職員の意見や気付きを取り入れ、利用者の趣味や嗜好などを課題分析概要シートに記載し、随時、更新していく。	R2年3月
2	26	計画作成担当者が中心に介護計画を作成しているが、全職員が評価や分析を行うに至っていない。	全職員が介護計画を意識して作成や記録に反映したい。	全職員が担当を持ち意見や評価を行うことで、より課題分析の明確を計る。日々の記録も介護計画を意識して記載する。	R2年6月
3	35	水害や地震時のマニュアルが整理されていない。又、避難訓練時の消防署や地域住民の参加がない。	防災対策マニュアルの作成。 消防署や地域住民の参加による避難訓練を行う。	消防署立ち会いの下、訓練が行えるよう依頼し町内会長にも地域住民の参加を促していく。又、水害や地震時の対応マニュアルを作成して訓練を計画する。	R2年9月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。